

課題調査における調査結果の分析及び施策への反映

(令和5年3月現在)

※ 課題調査とは、単年度調査として実施した次の調査項目をいいます。

- ・ 体感治安に関する意識(くらし交通安全課 生活安全企画課) Q22～23
- ・ アルコール依存症に対する意識(障害福祉課) Q24～28
- ・ 「森の力再生事業」と「森林(もり)づくり県民税」に関する意識(森林計画課) Q29～30

■ 体感治安に関する意識

調査目的	<p>県民の治安に対する意識(体感治安)を把握し、県民の不安感を払拭するための情報発信等の施策及び次期防犯まちづくり行動計画を策定する際の参考資料とする。</p>
調査結果の分析、意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 犯罪被害に遭うのではないかと不安に感じている人の割合は、48.7%と、前回調査(令和2年度)の52.5%から3.8ポイント減少しており、体感治安の改善が窺える。 ・ 前回調査に引き続き、空き巣などの侵入窃盗が不安を感じている犯罪の中で最多(64.8%)となっており、特に10代から40代の世代で不安を感じている割合が増加していることから、一人暮らし世代や共働き世代等を含めた侵入窃盗に係る防犯対策の啓発活動を行う必要がある。 ・ インターネットを利用した犯罪は、20代及び70歳代以上の世代で不安を感じている割合(55.4%)が増加していることから、若者世代だけでなく高齢世代に対してもサイバーセキュリティ対策を講じる必要がある。 ・ オレオレ詐欺などの特殊詐欺は、前回調査に比べて全世代で不安を感じている割合が増えており、特に60代以上では62.9%と不安を感じている割合が高いことから、引き続き高齢者を中心とした対策を継続するとともに、現役世代に対する広報啓発活動を行う必要がある。
今後の施策への反映の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民が安全で安心して暮らせる社会の実現のため、調査結果を広報・啓発事業等に反映していく。 ・ 県民、地域及び事業者団体並びに行政機関の協働による「しずおか防犯まちづくり県民会議」(事務局:くらし交通安全課)の活動重点に調査結果を反映させ、活動していく。 ・ 各警察署を通じ県民に対し、侵入盗、インターネット利用犯罪及び特殊詐欺の被害防止対策を働き掛けていく。
現時点で活用、反映したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「しずおか防犯まちづくり県民会議」発行の「防犯まちづくりニュース」に本調査結果を掲載し、啓発した。 ・ 地域の自主的防犯活動を担うリーダーを対象とした「防犯まちづくり講座」において、特殊詐欺やネット・スマホ問題をテーマとした講座を開催した。 ・ 侵入盗対策として県と協働して窓ガラス耐久テストを行い、窓の防犯対策を県民に呼びかけた。 ・ 大学生を中心とした若手防犯ボランティア交流会を開催し、特殊詐欺被害防止対策について検討した。
担当課	<p>くらし・環境部 県民生活局 くらし交通安全課 県警本部 生活安全企画課</p>

■ アルコール依存症に対する意識

<p>調査目的</p>	<p>平成 29 年度に策定した、県総合計画の分野別計画である「静岡県アルコール健康障害対策推進計画」は、令和5年度に計画期間が終了し、同年度に次期計画を策定する。</p> <p>国基本計画「アルコール健康障害対策基本計画(第2期)」では、新たな重点目標として「アルコール依存症への正しい知識を持つ者の割合の継続的向上」、関連指標として「アルコール依存症(者)に対する認識」を設定している。</p> <p>本調査において、「県民のアルコール依存症に対する意識」を把握し、次期計画の策定に活用することとする。</p>
<p>調査結果の分析、意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ アルコール依存症のイメージとして、「本人の意志が弱いだけであり、性格的な問題である」(31.0%)といった、誤ったイメージをもつ県民が一定数おり、依存症に関する正しい知識の普及啓発の必要性が示された。 ・ 一方で、アルコール依存症について知っていることとして、「飲酒をコントロールすることができない精神疾患である」(75.8%)が最も多く、多くの県民が依存症が精神疾患であると認識していることが示された。 ・ アルコール依存症に係る相談先として知っているもので、最も多かったのは「医療機関(病院や診療所など)」(46.4%)であり、更なる相談先の周知の必要性が示された。
<p>今後の施策への反映の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度に策定する次期静岡県アルコール健康障害対策推進計画において、県民のアルコール依存症に関する意識に係る関連指標の設定や、正しい知識を普及啓発する事業を検討していく。 ・ 静岡県アルコール健康障害対策連絡協議会において、次期計画を協議する際の検討資料とする。
<p>現時点で活用、反映したこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次期静岡県アルコール健康障害対策推進計画の策定に当たっての検討資料として活用している。
<p>担当課</p>	<p>健康福祉部 障害者支援局 障害福祉課</p>

■ 「森の力再生事業」と「森林(もり)づくり県民税」に関する意識

調査目的	森の力再生事業と森林(もり)づくり県民税に対する県民の認知度を把握し、事業広報計画の策定のための基礎資料として活用する。
調査結果の分析、意見	<p>森の力再生事業の認知度:31.8% 森林づくり県民税の認知度:21.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森の力再生事業の認知度が平成 31 年度と比較して、4.8 ポイント上がった。 ・ 年代別にみると、森の力再生事業、森林づくり県民税ともに 20 代以下の認知度が最も低くなっている。 ・ 今後、次代を担う若い世代に対して、森の力再生事業及び森林づくり県民税の認知度を向上する必要がある。
今後の施策への反映の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 税及び事業の趣旨、目的及び効果について「リーフレット」や「YouTube」など様々な手法による効果的な広報の参考とする。
現時点で活用、反映したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 静岡駅地下道ショーケースのデザインのコンセプトの参考とした。
担当課	経済産業部 森林・林業局 森林計画課